

平成 27 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)  
 工 (物質環境化学を除く)・医 (医)・農・教育文化 (中学数学・中学社  
 会・理科・技術・家庭・初等教育・特別支援・社会システム) 学部  
 平成 27 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 医学部は, [2], [4], [5] ~ [7] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 教育文化 (中学数学) 学部は, [1], [3], [8] ~ [10] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 教育文化 (中学 [社会, 理科, 技術, 家庭], 初等教育, 特別支援, 社会システム) 学部・農学部は, [10] ~ [12] 数 I・II・A・B (90 分)

**1** 次の各問に答えよ. ただし,  $\log x$  は  $x$  の自然対数を表す.

(1) 次の関数を微分せよ.

(a)  $y = \sin(\cos x)$

(b)  $y = \frac{e^{2x}}{x+1}$

(2) 次の定積分の値を求めよ.

(a)  $\int_0^{\pi} |\sin x \cos x| dx$

(b)  $\int_0^{\frac{1}{2}} \frac{x^3 + 2x^2 - 3}{x^2 - 1} dx$

(c)  $\int_0^1 \left( \frac{1}{\sqrt{4-x^2}} + \sqrt{\frac{3}{4-3x^2}} \right) dx$

(d)  $\int_1^2 x^3 \log x dx$

**2** 平面上に 3 点  $O, A, B$  があり,  $OA = 2, OB = 3, \angle AOB = \frac{\pi}{3}$  とする. 点  $A$  から直線  $OB$  に垂線を下ろし, 直線  $OB$  との交点を  $H$  とする. また, 点  $B$  から直線  $OA$  に垂線を下ろし, 直線  $OA$  との交点を  $I$  とする. 直線  $AH$  と直線  $BI$  の交点を  $P$  とし,  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とするとき, 次の各問に答えよ.

(1)  $\overrightarrow{OH}$  を,  $\vec{b}$  を用いて表せ.

(2)  $\overrightarrow{OP}$  を,  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表せ.

(3) 線分  $OP$  の長さを求めよ.

3 座標平面上に点 P があり、次のルールにより、点 P は移動する。

$a, b, c$  の文字がそれぞれ 1 つずつ書かれた球 3 個が入った袋から、1 個取り出してそこに書かれている文字を読み、その文字が

$a$  のとき、点 P は  $x$  軸の正の方向へ 1 だけ移動し、

$b$  のとき、点 P は  $x$  軸の負の方向へ 1 だけ移動し、

$c$  のとき、点 P は  $y$  軸の正の方向へ 1 だけ移動する。

最初、点 P は原点 O にあるものとする。この試行を、取り出した球を元に戻しながら、5 回続けて行う。例えば、これによって得られた 5 個の文字が順に  $b \rightarrow a \rightarrow c \rightarrow c \rightarrow a$  であるとすれば、上のルールにより、点 P の位置の座標は、

$$(0, 0) \rightarrow (-1, 0) \rightarrow (0, 0) \rightarrow (0, 1) \rightarrow (0, 2) \rightarrow (1, 2)$$

と変化する。

このとき、次の各問に答えよ。

- (1)  $y$  軸上で点 P の移動が終了する場合、終了したときの位置の座標をすべて求めよ。
- (2) 点 P の移動が終了する位置の相異なる座標の個数を求めよ。
- (3) 点 P の移動が終了する位置の座標  $(x, y)$  が  $|x| \leq 1, 1 \leq y \leq 2$  となる確率を求めよ。

4  $a \geq 0, b \geq 0$  とする。このとき、変数  $x$  の関数

$$f(x) = \cos 2x \cos x + 2a \sin 2x - 2 \cos 2x - 8a \sin x \\ - (b + 1) \cos x + 2(b + 1)$$

について、次の各問に答えよ。

- (1)  $X = \sin x, Y = \cos x$  とおくとき、

$$f(x) = (Y - \boxed{\text{ア}})(-\boxed{\text{イ}}X^2 + \boxed{\text{ウ}}X - b)$$

と表せる。ア、イ、ウに入る数、または  $a, b$  を用いた文字式を求めよ。

- (2) 方程式  $f(x) = 0$  が  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  の範囲内に少なくとも 1 つの解をもつようなすべての  $a, b$  を座標平面上の点  $(a, b)$  として図示せよ。

5 数列  $\{a_n\}$  は

$$\sqrt[3]{3} a_{n+2}^3 = a_n^4, \quad a_n > 0 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たしている.  $a_1 = 1, a_2 = 2$  のとき,  $a_{2k-1}$  ( $k$  は自然数) を,  $k$  を用いて表せ.

6  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{6}$  を満たす  $\theta$  について,  $r(\theta) = \sqrt{2 \cos 2\theta}$  とするとき, 座標平面上で円  $x^2 + y^2 = \{r(\theta)\}^2$  と直線  $y = (\tan \theta)x$  は 2 つの交点をもつ. そのうち,  $x$  座標が正であるものを  $P$  とし,  $P$  の  $x$  座標を  $f(\theta)$ ,  $y$  座標を  $g(\theta)$  とする.  $\theta$  を  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{6}$  の範囲で動かしたときの点  $P$  の軌跡を  $C$  とする. このとき, 次の各問に答えよ.

- (1)  $f(\theta), g(\theta)$  を求めよ.
- (2)  $g(\theta)$  の最大値を求めよ.
- (3) 曲線  $C$  と  $x$  軸, 直線  $x = f\left(\frac{\pi}{6}\right)$  で囲まれた部分の面積を求めよ.

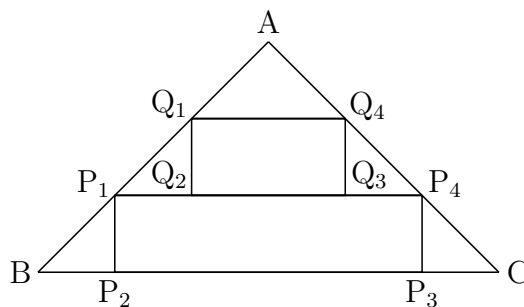
7  $n$  を 2 以上の自然数とする. 1 つの袋に 1 から  $n$  までの数を 1 つずつ書いた  $n$  個の球と, 数 0 を書いた 2 個の球が入っている. これら  $(n+2)$  個の球が入っている袋から, 元に戻すことなく, 1 個ずつ 3 回球を取り出し, その 3 個に書かれている数を取り出した順に  $a, b, c$  とする. 事象  $a + b \leq c$  の起こる確率を  $P(n)$  とするとき, 次の各問に答えよ.

- (1)  $P(3)$  を求めよ.
- (2)  $n$  を偶数とするとき,  $P(n)$  を,  $n$  を用いて表せ.

8 四面体  $OABC$  の 3 辺  $OA, AB, BC$  上に, それぞれ点  $P, Q, R$  がある.  $OP = PA, AQ = 2QB$  とし, 点  $R$  は点  $B$  とは異なるものとする.  $\triangle PQR$  の重心を  $H$  とするとき, 次の各問に答えよ. ただし,  $\vec{a} = \vec{OA}, \vec{b} = \vec{OB}, \vec{c} = \vec{OC}$  とする.

- (1)  $\vec{OH}$  を,  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  を用いて表せ.
- (2)  $\triangle ABC$  の重心を  $G$  とする. 3 点  $O, G, H$  が同一直線上にあるとき,  $\vec{OR}$  を  $\vec{b}, \vec{c}$  を用いて表せ.

- 9 右図の  $\triangle ABC$  は  $\angle A = 90^\circ$  で  $AB = 1$  の直角二等辺三角形である. この  $\triangle ABC$  の中に右図のように長方形  $P_1P_2P_3P_4$  と長方形  $Q_1Q_2Q_3Q_4$  をおき, 頂点  $P_1$  と  $Q_1$  が線分  $AB$  上に, 頂点  $P_4$  と  $Q_4$  が線分  $AC$  上にあるようにする. さらに, 頂点  $P_2$  と  $P_3$  がともに線分  $BC$  上に, 頂点  $Q_2$  と  $Q_3$  がともに線分  $P_1P_4$  上にあるようにする.  $x = BP_2$ ,  $y = P_1Q_2$  とするとき, 次の各問に答えよ.



- (1) 長方形  $P_1P_2P_3P_4$  の面積と長方形  $Q_1Q_2Q_3Q_4$  の面積の和を,  $x$  と  $y$  を用いて表せ.
- (2)  $x$  の値を固定して  $y$  の値を変化させるとき, 長方形  $P_1P_2P_3P_4$  の面積と長方形  $Q_1Q_2Q_3Q_4$  の面積の和の最大値を  $S(x)$  とおく. このとき,  $S(x)$  を,  $x$  を用いて表せ.
- (3)  $x$  の値を変化させるとき, (2) で求めた  $S(x)$  の最大値を求めよ.

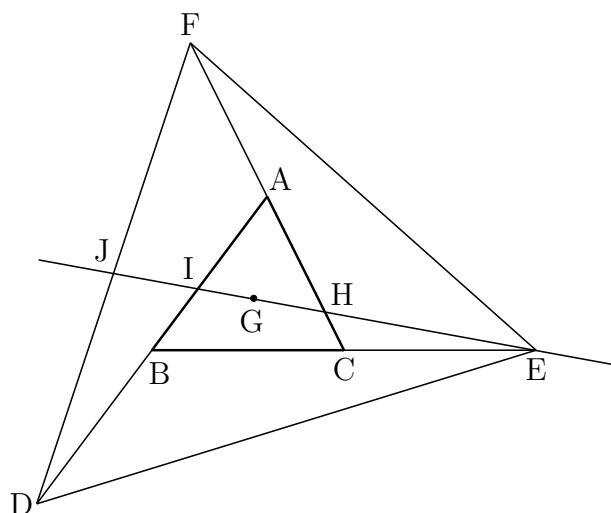
- 10 初項  $a_1 = 0$  と漸化式

$$a_{n+1} = (1-r)r^{n-1} + r^2a_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって与えられる数列  $\{a_n\}$  について, 次の各問に答えよ. ただし,  $r \neq 0$ ,  $r \neq 1$  とする.

- (1)  $a_2, a_3, a_4$  を,  $r$  を用いてそれぞれ表せ.
- (2) 第  $n$  項  $a_n$  を推測して, それが正しいことを, 数学的帰納法を用いて証明せよ.
- (3)  $\sum_{k=1}^n a_k$  を計算し,  $r, n$  を用いて表せ.

- 11** 右図の $\triangle ABC$ において、辺 $AB$ 上の延長上に $AB = BD$ となる点 $D$ がある。同様に、辺 $BC$ の延長上に $BC = CE$ となる点 $E$ が、辺 $CA$ の延長上に $CA = AF$ となる点 $F$ がそれぞれある。 $\triangle ABC$ の重心を $G$ とし、直線 $GE$ と線分 $AC$ ,  $AB$ ,  $FD$ との交点をそれぞれ $H$ ,  $I$ ,  $J$ とする。このとき、次の比を求めよ。



- (1)  $CH : HA$
  - (2)  $BI : IA$
  - (3)  $DJ : JF$
- 12** 曲線  $C : y = |x^2 - 6x|$  と直線  $l : y = kx$  ( $k$  は実数) について、次の各問に答えよ。
- (1) 曲線  $C$  を座標平面上に図示せよ。
  - (2) 曲線  $C$  と直線  $l$  が異なる 3 つの共有点をもつような  $k$  の値の範囲を求めよ。
  - (3) (2) のとき、曲線  $C$  と直線  $l$  で囲まれた 2 つの部分の面積の和が最小になるような  $k$  の値を求めよ。

## 正解

$$\boxed{1} \quad (1) \quad (a) \quad t = \cos x \text{ とおくと, } y = \sin t \text{ より } \frac{dy}{dt} = \cos t, \quad \frac{dt}{dx} = -\sin x$$

$$\text{よって } \frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot (-\sin x) = -\mathbf{\cos(\cos x) \cdot \sin x}$$

$$(b) \quad \frac{dy}{dx} = \frac{2e^{2x}(x+1) - e^{2x} \cdot 1}{(x+1)^2} = \frac{\mathbf{(2x+1)e^{2x}}}{(x+1)^2}$$

$$(2) \quad (a) \quad \sin x \cos x = \frac{1}{2} \sin 2x$$

$$\left| \frac{1}{2} \sin 2 \left( x + \frac{\pi}{2} \right) \right| = \left| \frac{1}{2} \sin 2x \right| \text{ であるから, } \left| \frac{1}{2} \sin 2x \right| \text{ の周期は } \frac{\pi}{2}$$

$$\text{よって } \int_0^{\pi} |\sin x \cos x| dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin 2x dx = \left[ -\frac{1}{2} \cos 2x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \mathbf{1}$$

$$(b) \quad \int_0^{\frac{1}{2}} \frac{x^3 + 2x^2 - 3}{x^2 - 1} dx = \int_0^{\frac{1}{2}} \left( x + 2 + \frac{1}{x+1} \right) dx$$

$$= \left[ \frac{1}{2}x^2 + 2x + \log(x+1) \right]_0^{\frac{1}{2}} = \mathbf{\frac{9}{8} + \log \frac{3}{2}}$$

$$(c) \quad \int_0^1 \frac{1}{\sqrt{4-x^2}} dx \text{ で } x = 2 \sin \theta \text{ とおくと } \begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{6} \end{array} \quad \frac{dx}{d\theta} = 2 \cos \theta$$

$$\text{したがって } \int_0^1 \frac{1}{\sqrt{4-x^2}} dx = \int_0^{\frac{\pi}{6}} \frac{1}{\sqrt{4-4\sin^2\theta}} \cdot 2 \cos \theta d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{6}} d\theta = \left[ \theta \right]_0^{\frac{\pi}{6}} = \frac{\pi}{6}$$

$$\int_0^1 \sqrt{\frac{3}{4-3x^2}} dx \text{ で } x = \frac{2}{\sqrt{3}} \sin \theta \text{ とおくと}$$

$$\begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{3} \end{array} \quad \frac{dx}{d\theta} = \frac{2}{\sqrt{3}} \cos \theta$$

$$\text{したがって } \int_0^1 \sqrt{\frac{3}{4-3x^2}} dx = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \sqrt{\frac{3}{4-4\sin^2\theta}} \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} \cos \theta d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{3}} d\theta = \left[ \theta \right]_0^{\frac{\pi}{3}} = \frac{\pi}{3}$$

$$\text{よって } \int_0^1 \left( \frac{1}{\sqrt{4-x^2}} + \sqrt{\frac{3}{4-3x^2}} \right) dx = \frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{3} = \mathbf{\frac{\pi}{2}}$$

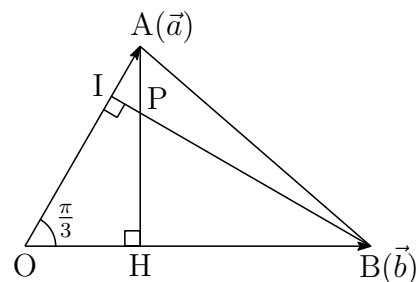
$$(d) \quad \int_1^2 x^3 \log x dx = \int_1^2 \left( \frac{x^4}{4} \right)' \log x dx = \left[ \frac{x^4}{4} \log x \right]_1^2 - \int_1^2 \frac{x^4}{4} \cdot \frac{1}{x} dx$$

$$= 4 \log 2 - \left[ \frac{x^4}{16} \right]_1^2 = \mathbf{4 \log 2 - \frac{15}{16}}$$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad OH = OA \cos \frac{\pi}{3} = 2 \cdot \frac{1}{2} = 1$$

$$\text{ゆえに} \quad \frac{OH}{OB} = \frac{1}{3}$$

$$\text{よって} \quad \overrightarrow{OH} = \frac{1}{3} \vec{b}$$



$$(2) \quad (1) \text{と同様にして} \quad OI = OB \cos \frac{\pi}{3} = 3 \cdot \frac{1}{2} = \frac{3}{2}$$

$$\text{ゆえに} \quad \frac{OI}{OA} = \frac{3 \cdot \frac{1}{2}}{2} = \frac{3}{4} \quad \text{よって} \quad \overrightarrow{OI} = \frac{3}{4} \vec{a}$$

$$\text{上式および(1)の結果から} \quad \vec{a} = \frac{4}{3} \overrightarrow{OI}, \quad \vec{b} = 3 \overrightarrow{OH}$$

ここで、 $\overrightarrow{OP} = x\vec{a} + y\vec{b}$ とおくと

$$\overrightarrow{OP} = x\overrightarrow{OA} + 3y\overrightarrow{OH}, \quad \overrightarrow{OP} = \frac{4}{3}x\overrightarrow{OI} + y\overrightarrow{OB}$$

Pは2直線AH, IB上の点であるから

$$x + 3y = 1, \quad \frac{4}{3}x + y = 1 \quad \text{これを解いて} \quad x = \frac{2}{3}, \quad y = \frac{1}{9}$$

$$\text{よって} \quad \overrightarrow{OP} = \frac{2}{3} \vec{a} + \frac{1}{9} \vec{b}$$

$$(3) \quad |\vec{a}| = 2, \quad |\vec{b}| = 3, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \frac{\pi}{3} = 2 \cdot 3 \cdot \frac{1}{2} = 3 \quad \text{より, (2)の結果から}$$

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OP}|^2 &= \left| \frac{2}{3} \vec{a} + \frac{1}{9} \vec{b} \right|^2 \\ &= \frac{4}{9} |\vec{a}|^2 + \frac{4}{27} \vec{a} \cdot \vec{b} + \frac{1}{81} |\vec{b}|^2 \\ &= \frac{16}{9} + \frac{4}{9} + \frac{1}{9} = \frac{21}{9} \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad OP = |\overrightarrow{OP}| = \frac{\sqrt{21}}{3}$$

- 3 (1)  $a, b, c$  の文字が書かれた球を取り出した個数をそれぞれ  $k_a, k_b, k_c$  とすると,  $y$  軸上で点  $P$  の移動が終了する場合,  $k_a = k_b, k_a + k_b + k_c = 5$  より

$$k_a = k_b = 0 \text{ のとき} \quad k_c = 5$$

$$k_a = k_b = 1 \text{ のとき} \quad k_c = 3$$

$$k_a = k_b = 2 \text{ のとき} \quad k_c = 1$$

よって, 求める点  $P$  の座標は  $(0, 5), (0, 3), (0, 1)$

- (2) 点  $P$  の移動が終了する位置の座標を  $(x, y)$  とすると

$$x = k_a - k_b, \quad y = 5 - (k_a + k_b) \quad (0 \leq k_a + k_b \leq 5)$$

ここで,  $j = k_a, k = k_a + k_b$  とおくと  $(0 \leq j \leq k, 0 \leq k \leq 5)$ ,  $k_b = k - j$  であるから

$$x = j - (k - j) = 2j - k, \quad y = 5 - k \quad \cdots (*)$$

直線  $y = 5 - k$  上に, 点  $(x, y)$  は,  $0 \leq j \leq k$  の  $k + 1$  個.

よって, 求める座標の個数は

$$\sum_{k=0}^5 (k+1) = 1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 = \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 7 = 21$$

- (3)  $1 \leq y \leq 2$  より,  $k = 3, 4$  であるから

$$k = 3 \text{ のとき } x = 2j - 3, \quad k = 4 \text{ のとき } x = 2j - 4$$

また,  $|x| \leq 1$  であるから  $(k, j) = (3, 1), (3, 2), (4, 2)$

$k_a = j, k_b = k - j, k_c = 5 - k$  であるから, 上の  $(k, j)$  に対して

$$(k_a, k_b, k_c) = (1, 2, 2), (2, 1, 2), (2, 2, 1)$$

これらの場合の数は  $\frac{5!}{1!2!2!} \times 3 = 90$

よって, 求める確率は  $\frac{90}{3^5} = \frac{10}{27}$



4 (1)  $a, b+1$ に着目して整理すると

$$\begin{aligned} f(x) &= \cos 2x(\cos x - 2) + 2a(\sin 2x - 4\sin x) - (b+1)(\cos x - 2) \\ &= \cos 2x(\cos x - 2) + 4a\sin x(\cos x - 2) - (b+1)(\cos x - 2) \\ &= (\cos x - 2)\{\cos 2x + 4a\sin x - (b+1)\} \\ &= (\cos x - 2)(-2\sin^2 x + 4a\sin x - b) \\ &= (Y - 2)(-2X^2 + 4aX - b) \end{aligned}$$

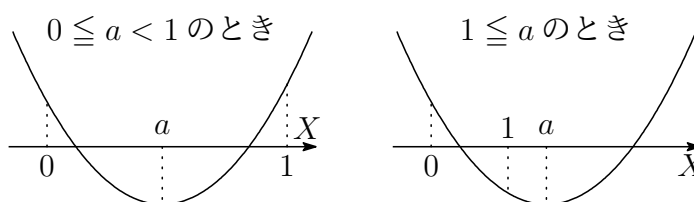
(2)  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  より,  $0 \leq X \leq 1$ ,  $0 \leq Y \leq 1$   
 $Y - 2 \neq 0$  であるから,  $f(x) = 0$  を満たすとき

$$-2X^2 + 4aX - b = 0 \quad \text{すなわち} \quad 2X^2 - 4aX + b = 0$$

ここで,  $G(X) = 2X^2 - 4aX + b$  とおくと

$$G(X) = 2(X - a)^2 - 2a^2 + b$$

方程式  $G(X) = 0$  が  $0 \leq X \leq 1$  の範囲内に少なくとも1つの解をもてばよいから,  $G(0) = b \geq 0$  に注意して, 次の場合に分けて考える.



(i)  $0 \leq a < 1$  のとき,  $G(a) \leq 0$  より

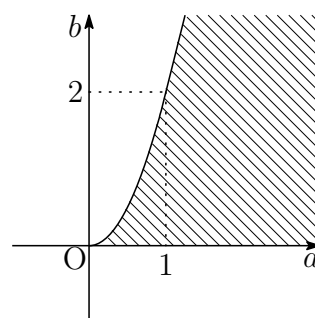
$$-2a^2 + b \leq 0 \quad \text{すなわち} \quad b \leq 2a^2$$

(ii)  $1 \leq a$  のとき,  $G(1) \leq 0$  より

$$2 - 4a + b \leq 0 \quad \text{すなわち} \quad b \leq 4a - 2$$

よって  $0 \leq b \leq 2a^2$  ( $0 \leq a < 1$ )  
 $0 \leq b \leq 4a - 2$  ( $1 \leq a$ )

点  $(a, b)$  の表す領域は, 右の図の斜線部分で, 境界線を含む.



5  $a_n > 0$  であるから,  $\sqrt[3]{3}a_{n+2}^3 = a_n^4$  の両辺を 3 を底とする対数をとると

$$\frac{1}{3} + 3 \log_3 a_{n+2} = 4 \log_3 a_n$$

$n = 2k - 1$  ( $k$  は自然数) とおくと

$$\frac{1}{3} + 3 \log_3 a_{2k+1} = 4 \log_3 a_{2k-1}$$

さらに,  $b_k = \log_3 a_{2k-1} \cdots$  ① とおくと ( $k$  は自然数)

$$b_1 = \log_3 a_1 = 0, \quad \frac{1}{3} + 3b_{k+1} = 4b_k$$

したがって  $b_{k+1} - \frac{1}{3} = \frac{4}{3} \left( b_k - \frac{1}{3} \right)$

数列  $\left\{ b_k - \frac{1}{3} \right\}$  は, 初項  $-\frac{1}{3}$ , 公比  $\frac{4}{3}$  の等比数列であるから

$$b_k - \frac{1}{3} = -\frac{1}{3} \left( \frac{4}{3} \right)^{k-1} \quad \text{ゆえに} \quad b_k = \frac{1}{3} \left\{ 1 - \left( \frac{4}{3} \right)^{k-1} \right\}$$

① から  $\log_3 a_{2k-1} = \frac{1}{3} \left\{ 1 - \left( \frac{4}{3} \right)^{k-1} \right\}$  よって  $a_{2k-1} = 3^{\frac{1}{3} \left\{ 1 - \left( \frac{4}{3} \right)^{k-1} \right\}}$

**6** (1)  $f(\theta) = x = r(\theta) \cos \theta = \sqrt{2 \cos 2\theta} \cos \theta$

$$g(\theta) = y = r(\theta) \sin \theta = \sqrt{2 \cos 2\theta} \sin \theta$$

(2) (1) の結果から

$$\{g(\theta)\}^2 = 2 \cos 2\theta \sin^2 \theta = 2(1 - 2 \sin^2 \theta) \sin^2 \theta$$

$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{6}$  より,  $t = \sin^2 \theta$ ,  $h(t) = \{g(\theta)\}^2$  とおくと

$$h(t) = 2(1 - 2t)t = -4 \left(t - \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{1}{4} \quad \left(0 \leq t \leq \frac{1}{4}\right)$$

したがって,  $h(t)$  の最大値は  $h\left(\frac{1}{4}\right) = \frac{1}{4}$

$g(\theta) \geq 0$  であるから,  $h(t)$  が最大するとき,  $g(\theta)$  は最大となる.

よって,  $g(\theta)$  の最大値は

$$t = \frac{1}{4} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{\pi}{6} \quad \text{のとき, 最大値} \quad \frac{1}{2}$$

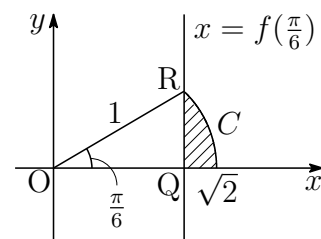
(3)  $\theta = \frac{\pi}{6}$  のとき  $r\left(\frac{\pi}{6}\right) = \sqrt{2 \cos \frac{\pi}{3}} = 1$

右の図において

$$OR = r\left(\frac{\pi}{6}\right) = 1$$

$$OQ = OR \cos \frac{\pi}{6} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$RQ = OR \sin \frac{\pi}{6} = \frac{1}{2}$$



求める面積を  $S$  とすると, 図の斜線部分であるから

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{6}} \{r(\theta)\}^2 d\theta - \triangle ORQ \\ &= \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{6}} 2 \cos 2\theta d\theta - \frac{1}{2} OQ \cdot RQ \\ &= \frac{1}{2} \left[ \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{6}} - \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}}{8} \end{aligned}$$

- 7 (1)  $n = 3$  のとき,  $0, 0, 1, 2, 3$  の数が書かれた 5 個の球を, 数  $0$  が書かれた 2 個の球を  $0_1, 0_2$  と区別する.

$0_1, 0_2, 1, 2, 3$  の 5 つから 3 つとる  $a, b, c$  の順列の総数は

$${}_5P_3 = 5 \cdot 4 \cdot 3 = 60 \text{ (通り)}$$

$a + b \leq c$  となる  $(a, b)$  の組は  $c$  の値により, 次の場合に分けられる.

- (i)  $c = 1$  のとき,  $0_1, 0_2$  の 2 つを並べる順列の総数であるから

$$2! = 2 \cdot 1 = 2 \text{ (通り)}$$

- (ii)  $c = 2$  のとき,  $0_1, 0_2, 1$  の 3 つから 2 つとる順列の総数であるから

$${}_3P_2 = 3 \cdot 2 = 6 \text{ (通り)}$$

- (iii)  $c = 3$  のとき,  $0_1, 0_2, 1, 2$  の 4 つから 2 つとる順列の総数であるから

$${}_4P_2 = 4 \cdot 3 = 12 \text{ (通り)}$$

よって 
$$P(3) = \frac{2 + 6 + 12}{60} = \frac{1}{3}$$

- (2) (iv)  $a + b = c \cdots \textcircled{1}$  を満たすのは  $c \geq 3, a \neq 0, b \neq 0$  のときである.  
 $c$  が奇数のとき,  $\textcircled{1}$  を満たす  $(a, b)$  の組数は下に示した  $c - 1$  (組)

$$(a, b) = (1, c - 1), (2, c - 2), \dots, (c - 1, 1)$$

$c$  が偶数のとき,  $a \neq b$  により,  $\textcircled{1}$  を満たす  $(a, b)$  の組数は  $c - 2$  (組)  
 したがって,  $\textcircled{1}$  を満たす  $(a, b)$  の組数は

$$c - 1 - \frac{1 + (-1)^c}{2} = c - \frac{3}{2} + \frac{1}{2}(-1)^{c-1} \quad (c \geq 3)$$

- (v)  $a, b$  の少なくとも 1 つが  $0$  で  $a + b \leq c$  ( $c \geq 3$ ) を満たす  $(a, b)$  の組数は,  $0_1, 0_2, 1, 2, \dots, c - 1$  の  $c + 1$  個から 2 個とる順列の総数から  $1, 2, \dots, c - 1$  の  $c - 1$  個から 2 個とる順列の総数を引いたものであるから

$${}_{c+1}P_2 - {}_{c-1}P_2 = (c + 1)c - (c - 1)(c - 2) = 4c - 2$$

$a + b \leq c \cdots \textcircled{2}$  を満たす  $c$  の値は  $c \geq 1$

$c$  の値に対して  $\textcircled{2}$  を満たす  $(a, b)$  の組の総数を  $f(c)$  とする.

$c \geq 3$  のとき, (iv), (v) から

$$\begin{aligned} f(c) &= \sum_{k=3}^c \left\{ k - \frac{3}{2} + \frac{1}{2}(-1)^{k-1} \right\} + 4c - 2 \\ &= \frac{1}{2}(c-2)(3+c) - \frac{3}{2}(c-2) + \frac{1}{2} \times \frac{1 - (-1)^{c-2}}{1 - (-1)} + 4c - 2 \\ &= \frac{1}{2}c^2 + 3c - \frac{7}{4} + \frac{1}{4}(-1)^{c-1} \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

(i), (ii) から  $f(1) = 2, f(2) = 6$

上の結果から,  $c = 1, 2$  のときも (\*) は成立するから

$$\begin{aligned} \sum_{c=1}^n f(c) &= \sum_{c=1}^n \left\{ \frac{1}{2}c^2 + 3c - \frac{7}{4} + \frac{1}{4}(-1)^{c-1} \right\} \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} n(n+1)(2n+1) + 3 \cdot \frac{1}{2} n(n+1) - \frac{7}{4}n + \frac{1}{4} \cdot \frac{1 - (-1)^n}{1 - (-1)} \\ &= \frac{1}{12} n(2n^2 + 21n - 2) + \frac{1}{8} \{1 - (-1)^n\} \end{aligned}$$

$$n \text{ が偶数のとき} \quad \sum_{c=1}^n f(c) = \frac{1}{12} n(2n^2 + 21n - 2)$$

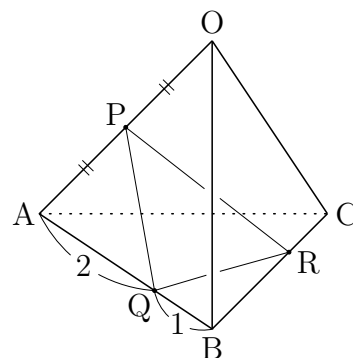
$$\begin{aligned} \text{よって} \quad P(n) &= \frac{1}{n+2P_3} \sum_{c=1}^n f(c) \\ &= \frac{1}{(n+2)(n+1)n} \times \frac{1}{12} n(2n^2 + 21n - 2) \\ &= \frac{2n^2 + 21n - 2}{12(n+1)(n+2)} \end{aligned}$$

- 8 (1) 条件から、Pは線分OAの中点、Qは線分ABを2:1に内分する点であるから

$$\vec{OP} = \frac{1}{2}\vec{a}, \quad \vec{OQ} = \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{3}$$

よって、 $\triangle PQR$ の重心Hの位置ベクトルは

$$\begin{aligned} \vec{OH} &= \frac{1}{3}(\vec{OP} + \vec{OQ} + \vec{OR}) \\ &= \frac{1}{3}\left(\frac{1}{2}\vec{a} + \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{3} + \vec{OR}\right) \\ &= \frac{5}{18}\vec{a} + \frac{2}{9}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{OR} \end{aligned}$$



- (2) (1)の結果から  $\vec{OH} = \frac{5}{18}\vec{OA} + \frac{2}{9}\vec{OB} + \frac{1}{3}\vec{OR}$

O, G, Hは同一直線上にあるから、実数kを用いて

$$\vec{OG} = \frac{5}{18}k\vec{OA} + \frac{2}{9}k\vec{OB} + \frac{1}{3}k\vec{OR} \quad \dots \textcircled{1}$$

Gは平面ABR上の点であるから

$$\frac{5}{18}k + \frac{2}{9}k + \frac{1}{3}k = 1 \quad \text{すなわち} \quad k = \frac{6}{5}$$

これを①に代入すると

$$\vec{OG} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{4}{15}\vec{b} + \frac{2}{5}\vec{OR}$$

また、Gは $\triangle ABC$ の重心であるから

$$\vec{OG} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{c}$$

上の2式から  $\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{4}{15}\vec{b} + \frac{2}{5}\vec{OR} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{c}$

よって  $\vec{OR} = \frac{1}{6}\vec{b} + \frac{5}{6}\vec{c}$

- 9 (1)  $Q_1Q_2 = 2z$  とし、求める面積を  $S$  とすると

$$S = \triangle ABC - x^2 - y^2 - z^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

$2x + 2y + 2z = BC = \sqrt{2}$  であるから

$$z = \frac{1}{\sqrt{2}} - (x + y) \quad \dots \textcircled{2}$$

②を①に代入すると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} - x^2 - y^2 - \left\{ \frac{1}{\sqrt{2}} - (x + y) \right\}^2 \\ &= \frac{1}{2} - x^2 - y^2 - \left\{ \frac{1}{2} - \sqrt{2}(x + y) + (x + y)^2 \right\} \\ &= -2x^2 - 2xy - 2y^2 + \sqrt{2}x + \sqrt{2}y \end{aligned}$$

- (2) (1)の結果から

$$\begin{aligned} S &= -2y^2 + (\sqrt{2} - 2x)y - 2x^2 + \sqrt{2}x \\ &= -2 \left( y^2 - \frac{\sqrt{2} - 2x}{2}y \right) - 2x^2 + \sqrt{2}x \\ &= -2 \left( y - \frac{\sqrt{2} - 2x}{4} \right)^2 + 2 \left( \frac{\sqrt{2} - 2x}{4} \right)^2 - 2x^2 + \sqrt{2}x \\ &= -2 \left( y - \frac{\sqrt{2} - 2x}{4} \right)^2 - \frac{3}{2}x^2 + \frac{\sqrt{2}}{2}x + \frac{1}{4} \end{aligned}$$

$y = \frac{\sqrt{2} - 2x}{4}$  のとき、 $S$  は最大値  $-\frac{3}{2}x^2 + \frac{\sqrt{2}}{2}x + \frac{1}{4}$  をとる。

よって 
$$S(x) = -\frac{3}{2}x^2 + \frac{\sqrt{2}}{2}x + \frac{1}{4}$$

- (3) (2)の結果から 
$$S(x) = -\frac{3}{2} \left( x - \frac{\sqrt{2}}{6} \right)^2 + \frac{1}{3} \quad \left( 0 < x < \frac{\sqrt{2}}{2} \right)$$

よって、 $S(x)$  は、 $x = \frac{\sqrt{2}}{6}$  のとき、最大値  $\frac{1}{3}$  をとる。

補足 (1)の結果は、 $x, y$  の対称式であるから、 $S$  が最大値をとるとき  $x = y$

このとき 
$$S = -6x^2 + 2\sqrt{2}x = -6 \left( x - \frac{\sqrt{2}}{6} \right)^2 + \frac{1}{3}$$

よって、 $S$  は  $x = y = \frac{\sqrt{2}}{6}$  のとき最大値  $\frac{1}{3}$  をとる。

$$\boxed{10} \quad (1) \quad a_1 = 0, \quad a_{n+1} = (1-r)r^{n-1} + r^2 a_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

上の漸化式に順次,  $n = 1, 2, 3$  を代入すると

$$\begin{aligned} a_2 &= (1-r)1 + r^2 a_1 = 1-r + r^2 \cdot 0 = \mathbf{1-r} \\ a_3 &= (1-r)r + r^2 a_2 = r-r^2 + r^2(1-r) = \mathbf{r-r^3} \\ a_4 &= (1-r)r^2 + r^2 a_3 = r^2-r^3 + r^2(r-r^3) = \mathbf{r^2-r^5} \end{aligned}$$

(2) (1) の結果から, 第  $n$  項  $a_n$  を

$$a_n = r^{n-2} - r^{2n-3} \quad \dots (*)$$

と推測する.

[1]  $n = 1$  のとき,  $a_1 = r^{-1} - r^{-1} = 0$  であり, (\*) が成り立つ.

[2]  $n = k$  のとき, (\*) が成り立つ, すなわち

$$a_k = r^{k-2} - r^{2k-3}$$

であると仮定すると

$$a_{k+1} = (1-r)r^{k-1} + r^2(r^{k-2} - r^{2k-3}) = r^{k-1} - r^{2k-1}$$

となり,  $n = k+1$  のときも (\*) が成り立つ.

[1], [2] から, すべての自然数  $n$  について, (\*) が成り立つ.

$$(3) \quad (2) \text{ の結果から} \quad \sum_{k=1}^n a_k = \frac{1}{r} \sum_{k=1}^n \{r^{k-1} - (r^2)^{k-1}\}$$

(i)  $r \neq -1$  のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n a_k &= \frac{1}{r} \sum_{k=1}^n \{r^{k-1} - (r^2)^{k-1}\} \\ &= \frac{1}{r} \left( \frac{r^n - 1}{r - 1} - \frac{r^{2n} - 1}{r^2 - 1} \right) = \frac{1}{r} \left\{ \frac{r^n - 1}{r - 1} - \frac{(r^n + 1)(r^n - 1)}{(r + 1)(r - 1)} \right\} \\ &= \frac{r^n - 1}{r(r + 1)(r - 1)} \{(r + 1) - (r^n + 1)\} = -\frac{(r^n - 1)(r^{n-1} - 1)}{(r + 1)(r - 1)} \end{aligned}$$

(ii)  $r = -1$  のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n a_k &= -\sum_{k=1}^n \{(-1)^{k-1} - 1\} \\ &= -\left\{ \frac{1 - (-1)^n}{1 - (-1)} - n \right\} = \frac{(-1)^n - 1}{2} + n \end{aligned}$$



補足 与えられた漸化式から

$$a_{n+1} - r^2 a_n = (1-r)r^{n-1}$$

$$\frac{a_{n+1}}{r^{2n+2}} - \frac{a_n}{r^{2n}} = \frac{1-r}{r^4} (r^{-1})^{n-1}$$

$n \geq 2$  のとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} \left( \frac{a_{k+1}}{r^{2k+2}} - \frac{a_k}{r^{2k}} \right) = \frac{1-r}{r^4} \sum_{k=1}^{n-1} (-1)^{k-1}$$

$$\frac{a_n}{r^{2n}} = \frac{1-r}{r^4} \times \frac{1 - (r^{-1})^{n-1}}{1 - r^{-1}} = -\frac{1 - r^{-n+1}}{r^3}$$

よって  $a_n = r^{n-2} - r^{2n-3}$

$a_1 = 0$  であるから, 上式は  $n = 1$  のときも成り立つ.

したがって, 一般項  $a_n$  は  $a_n = r^{n-2} - r^{2n-3}$

- 11** (1) B, C の中点を M とし, 直線 GE を  $l$  とする.

$\triangle AMC$  と  $l$  について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AG}{GM} \cdot \frac{ME}{EC} \cdot \frac{CH}{HA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{2}{1} \cdot \frac{3}{2} \cdot \frac{CH}{HA} = 1$$

したがって  $\frac{CH}{HA} = \frac{1}{3}$  よって  $\mathbf{CH : HA = 1 : 3}$

- (2)  $\triangle ABC$  と  $l$  について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AI}{IB} \cdot \frac{BE}{EC} \cdot \frac{CH}{HA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{AI}{IB} \cdot \frac{2}{1} \cdot \frac{1}{3} = 1$$

したがって  $\frac{AI}{IB} = \frac{3}{2}$  よって  $\mathbf{BI : IA = 2 : 3}$

- (3) (1),(2) の結果から

$$AI : ID = 3 : 2 + 5 = 3 : 7, \quad FH : HA = 4 + 3 : 3 = 7 : 3$$

$\triangle ADF$  と  $l$  について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AI}{ID} \cdot \frac{DJ}{JF} \cdot \frac{FH}{HA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{3}{7} \cdot \frac{DJ}{JF} \cdot \frac{7}{3} = 1$$

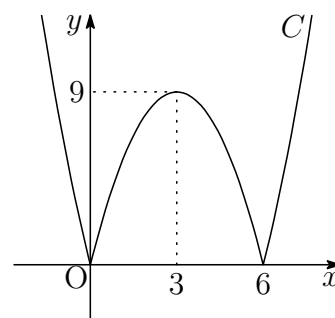
したがって  $\frac{DJ}{JF} = 1$  よって  $\mathbf{DJ : JF = 1 : 1}$

$$\boxed{12} \quad (1) \quad |x^2 - 6x| = \begin{cases} (x-3)^2 - 9 & (x \leq 0, 6 \leq x) \\ -(x-3)^2 + 9 & (0 \leq x \leq 6) \end{cases}$$

したがって

$$C: y = |x^2 - 6x|$$

のグラフは、右の図のようになる。



$$(2) \quad y = -x^2 + 6x \text{ を微分すると } y' = -2x + 6$$

$$y = -x^2 + 6x \text{ の } x = 0 \text{ における接線の傾きは } y' = 6$$

(1) のグラフから、 $C$  と  $\ell$  が異なる 3 つの共有点をもつ  $k$  の値の範囲は

$$0 < k < 6$$

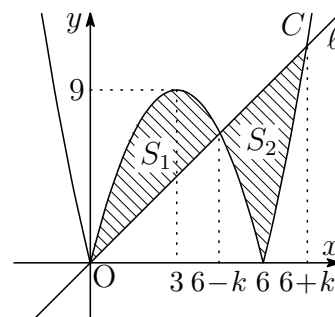
(3)  $C$  と  $\ell$  の共有点の  $x$  座標は

$x \leq 0, 6 \leq x$  のとき、

$$x^2 - 6x = kx \quad \text{よって} \quad x = 0, 6 + k$$

$0 \leq x \leq 6$  のとき、

$$-x^2 + 6x = kx \quad \text{よって} \quad x = 0, 6 - k$$



$0 \leq x \leq 6 - k$  の範囲で  $C$  と  $\ell$  で囲まれた部分の面積を  $S_1$  とすると

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_0^{6-k} \{-x^2 + 6x - kx\} dx \\ &= - \int_0^{6-k} x(x - 6 + k) dx = \frac{1}{6}(6 - k)^3 \end{aligned}$$

$f(x) = x(x - 6)$  とし、この原始関数を  $F(x)$  とする。

$6 - k \leq x \leq 6 + k$  の範囲で  $C$  と  $\ell$  で囲まれた部分の面積を  $S_2$  とすると

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_{6-k}^{6+k} \{kx - |f(x)|\} dx \\ &= \left[ \frac{1}{2}kx^2 \right]_{6-k}^{6+k} + \int_{6-k}^6 f(x) dx - \int_6^{6+k} f(x) dx \\ &= 12k^2 - F(6 - k) - F(6 + k) + 2F(6) \end{aligned}$$

$C$  と  $l$  で囲まれた 2 つの部分の面積の和を  $S(k)$  とすると,  
 $S(k) = S_1 + S_2$  より

$$S(k) = \frac{1}{6}(6-k)^3 + 12k^2 - F(6-k) - F(6+k) + 2F(6)$$

これを  $k$  について微分すると

$$\begin{aligned} S'(k) &= -\frac{1}{2}(6-k)^2 + 24k + f(6-k) - f(6+k) \\ &= -\frac{1}{2}(6-k)^2 + 24k + (k^2 - 6k) - (k^2 + 6k) \\ &= -\frac{1}{2}(k^2 - 36k + 36) \end{aligned}$$

$$S'(k) = 0 \text{ とすると } k = 6(3 \pm 2\sqrt{2})$$

$$\text{ここで } 0 < 6(3 - 2\sqrt{2}) = \frac{6}{3 + 2\sqrt{2}} < 6 < 6(3 + 2\sqrt{2})$$

したがって、 $0 \leq k \leq 6$  における  $S(k)$  の増減表は、次のようになる。

$k$	0	...	$6(3 - 2\sqrt{2})$	...	6
$S'(k)$		-	0	+	
$S(k)$		↘	極小	↗	

よって、求める  $k$  の値は  $k = 6(3 - 2\sqrt{2})$

補足 右の図から

$$S_3 + (S_3 - S_1) + S_2 = \frac{1}{6}(6+k)^3$$

したがって

$$S(k) = S_1 + S_2 = \frac{1}{6}(6+k)^3 + 2S_1 - 2S_3$$

このとき

$$S_1 = \frac{1}{6}(6-k)^3, \quad S_3 = \frac{1}{6} \cdot 6^3 = 36$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad S(k) &= \frac{1}{6}(6+k)^3 + 2 \times \frac{1}{6}(6-k)^3 - 2 \times 36 \\ &= \frac{1}{6}(6+k)^3 + \frac{1}{3}(6-k)^3 - 72 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{これを微分すると} \quad S'(k) &= \frac{1}{2}(6+k)^2 - (6-k)^2 \\ &= -\frac{1}{2}(k^2 - 36k + 36) \end{aligned}$$

